



(かながわの探鳥地 50 選・かながわの公園 50 選)
エメラルドグリーン湖のほとりです、そよ風に吹かれるながさく。そんなロマンチックな体験ができるスポットがここ、
280 メートル。この湖は、津久井湖の水をポンプで汲み上げ、電を行うために造られたものです。静かな湖畔は野鳥の宝庫には峰の薬師や高尾山へのハイキングコースがあり、5km の散策路には野鳥観察休憩所や展望台も設置され



MAP C-2

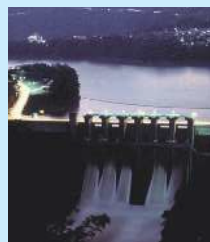


MAP F-6



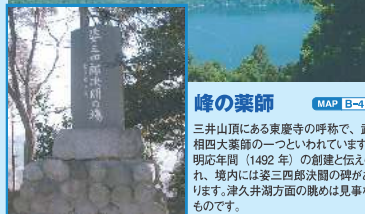
MAP F-3

【開園期間】
3月第2土曜日～4月第3日曜日
【花の見ごろ】
3月下旬～4月上旬



MAP D-6

相模川をせき止めて造られた湖で、京浜地帯の飲料水や工業用水を供給しています。(昭和40年完成)



MAP B-4

三井山頂にある東慶寺の呼称で、正相四大薬師の一つといわれています。明応年間（1492年）の創建と伝えられ、境内には姿三四郎決闘の碑があります。津久井湖方面の眺めは見事なものです。



MAP F-6



MAP C-2



MAP F-3

小松橋の信号北側に小さな橋があり、この金刀比羅宮参道入口からは静かでなだらかな尾根道になっています。雑木林に囲まれたこの参道はとりわけ新緑から落ち葉の頃にかけて素晴らしいコースで、途中に宝泉寺、小松城址があります。



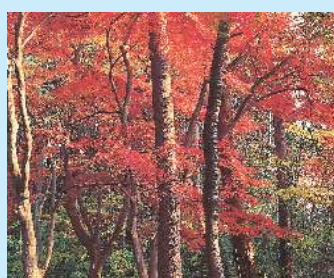
MAP F-3

城北地域の穴川沿いに咲く紫陽花。この地域は自然回復に努め、蛍の維持繁殖のため環境整備を行っています。紫陽花が咲く頃、夏の風物詩としての蛍が飛び回ります。夏にも、蛍は小松川や藤木川沿いでも観察できます。



MAP D-3

本沢梅園では、6月上・中旬頃、約千本の木に梅が実り、週末には「梅もぎ」ができます。果実は梅酒用の白加賀が主ですが、梅干しなどにも利用できます。



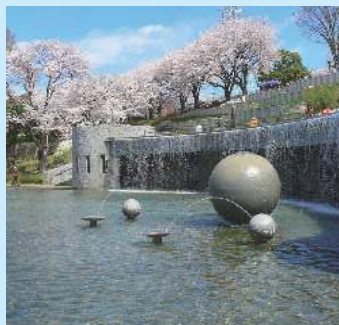
MAP D-3

昔、片倉城、津久井城、小松城のそれぞれの武将が落城について相談した所といわれています。評議原のもみじは11月中旬くらいから一面が紅葉することでも有名です。



MAP F-3

応神天皇を御祭神として大永五年（1525年）に創建されたと伝えられています。宝暦十年（1760年）に本殿が再建され、この地域では最古の木造建築です。毎年8月27・28日に例大祭（城山夏まつり）が行われます。11月最終の土・日曜日には大しめ縄づくりも行われ、境内の御神木や拝殿に飾られるほか、鎌倉の鶴岡八幡宮にも納められます。



MAP D-5

噴水や緑がいっぱいで、たくさんの芝生がある園地付近には、テニスコートやボート乗り場もあります。



歴史ある城山を巡る。



普門寺



八木重吉の詩碑

大正末期の詩人・大戸(町田市相原)の生まれ、川尻小学校から鎌倉師範、東京高師に学ぶ、クリスチャンで内村鑑三の影響による信仰詩が多く、川尻小学校の校庭にある詩碑は自筆の文字と画です。



普門寺の鏡口

鏡口は神社やお寺の正面にある金属製の中空の円盤で、拝む際に前に垂らしてある鈴を叩いて音を鳴らします。県内の鏡口の中で最も古い年号の磨応二年(1339年)が刻まれており、県重要文化財に指定されています。



普門寺 木造
聖観音菩薩立像

本観音菩薩像は、平安後期の露彫様式を感じさせる作風で、神奈川県に残る当該期の菩薩像のなかでも、中央的作風を備える傑作です。また、「卯年観音」とも呼ばれ、十二年に一度卯年に御開帳されます。



川尻石器時代遺跡

昭和6年に国史跡に指定された遺跡で、今から4,500〜5,000年前、縄文時代中・後期の集落遺跡です。縄文土器や石器、土偶などとともに石敷きの住居跡や竪穴住居跡が多数見つかっています。



宝泉寺
板碑・石灯笼

小松城址のふもとにある宝泉寺が所蔵しています。板碑には正嘉二年(1258年)、石灯笼には応永十七年(1410年)という古い年号が刻まれています。



加藤武雄文学碑

郷土が生んだ大衆文芸作家、加藤武雄氏を記念して建てられました。津久井湖を見おろす明るい南の高台にあり、文学気分をひたして休ませてみては。



下馬橋

八王子城落城を注進にきた騎馬武者が、津久井城の落城を知り、ム子代わりの梅の枝を地上に差したのが根付いたという伝説から、下馬橋(逆さ梅)といわれています。



3月
(上旬) 本沢梅園まつり

城山湖付近にある約3ヘクタールの本沢梅園では、約千本の梅の開花に併せて「梅園まつり」が開催されます。開放された園内では、小さな花びらを付けた梅の花が咲き誇り、甘い香りが春の訪れを感じさせてくれます。また、6月には梅もきりも行われます。



8月
(16日) 小倉橋灯ろう流し

かながわの景勝50選の小倉橋のたもとから、様々な願いを込めた約700基の灯ろうが相模川に流され、ライトアップで浮かぶかごとた美しいアーチ型の小倉橋とともに幻想的な雰囲気になります。



10月
(上旬) 小松コスモスまつり

小松地域の遊休農地の活用として、休耕田に植えられたコスモスが10月上旬から中旬にかけて咲きみだれます。10月上旬には「コスモスまつり」が開催され、花の摘み取りや地域特産品などの販売が行われます。



4月
(上旬) 津久井湖さくらまつり

県立津久井湖城山公園(水の苑地・花の苑地)周辺では、約200本の桜が咲き、お花見に最適です。「さくらまつり」の当日は、地域特産品の販売やフリーマーケットなどのイベントが行われます。



10月
(上旬) 葉山島落花生の収穫祭

相模川の流れを背景に稲穂が黄金色に染まる田園風景が広がります。収穫祭では、古くから栽培が盛んである落花生の収穫体験や新米・地場野菜などの販売が行われます。



5月
(下旬) ルピナスまつり

「昇り藤」ともいわれる色とりどりのルピナスが、津久井湖城山公園水の苑地に咲き誇ります。ルピナスまつりでは、ステージや地域特産品などの販売が行われます。



10月
(第3日曜日) もみじまつり

「ふれあいづくり、地域(まち)づくり」をテーマとして毎年、原宿公園を会場に「城山もみじまつり」が開催されます。会場では多くのデパートが並び、中央の芝生やステージでは子どもから大人まで、また多くの団体が参加しての催し物が行われ、大勢の人々が賑わいます。



6月
(下旬) 城北里山まつり

城北地域では、環境保護活動の啓発を目的として、地元自治会やブチエコじょうほく(民間団体)などが中心となり、蜜食園花をテーマとした「里山まつり」が行われます。当日は、地場野菜や地域特産品の販売、蜜の観覧会などが行われます。



8月
(27・28日) 城山夏まつり

毎年8月27日、28日の両日に行われる祭りで、27日は白装束に身を包んだ男たちが神輿をかつぎ、朝から夜まで旧川尻地区を練り歩く男壮年の祭りです。28日には山車による祭囃子競演、各種余興や出店にぎわいます。



11月
(上旬) しろやま得の市〜久保沢の市〜

城山総合事務所前通り(通称：役場前通り)沿いの賑わいの創出を目的に開催されています。当日は通りを歩行者天国にして、鉢花の無料配布や地域特産品などの販売が行われます。

自然の恵みと地域の逸品



ぐうみたてプリン
一流レストランで腕を磨いたパティシエが、材料から製法まで吟味してつくったこだわりのプリンです。
【エリーゼ洋菓子店】☎042-782-4893

自然仕立てブルーベリージャム

ジャムの素材には、城山の清き水と豊かな土で無農薬に育てられて育ったブルーベリーを使い、一つ一つ手間をかけて作った無添加のジャムです。
【ローズベリーファーム】☎042-783-6683

城山赤カブ漬

添加物を使わず、素材の味を活かした赤カブの酢漬です。赤カブは地元城山産を使用しています。
【まるは農園】☎042-782-2161



手づくりみそと米麹

地元の水田でとれた稲と転作大豆を使用した手づくりの味噌と米麹です。11月中旬〜3月中旬の期間限定。
【玉ちゃん手づくり加工所】☎042-782-4257



相州福寿最中

城山の代表的な農産物である梅をかたどって和菓子(最中)を創作しました。梅のほのよい酸味がきいた十勝小豆の餡です。
【浜田製菓】☎042-771-9272

津久井みそまんじゅう

津久井地区で作られた「幻の大豆」と言われる津久井在来大豆の甘みそを包んだ津久井みそまんじゅう。風味と香りが違います。
【浜田製菓】☎042-771-9272



鮎の一夜干し

相模川の鮎漁の賑わいなど、地域資源や歴史を踏まえて開発した鮎の一夜干しです。背開きから天日干しまで、一つ一つ手づくりの貴重な一品です。
【城山商工会】☎042-782-3338

梅ぼ乃香

本沢梅園の梅を、新鮮なうちに手づくり製法で仕上げた、ほのかな甘みの梅ジュースです。
【城山湖里地里山観光振興協議会】☎042-783-8065



城山散歩

Shiroyama-Sanpo

凡例

